

# 右・左 人工膝関節全置換術を受けられる患者さんへ

様

	手術当日											
	入院当日	術前		術後		術後1日	術後2日	術後3～7日目	術後8～14日	術後15～21日	術後22～退院	
	月 日( )	月 日( )		月 日( )		月 日( )	月 日( )	月 日( )～月 日( )	月 日( )～月 日( )	月 日( )～月 日( )	月 日( )～月 日( )	
目標	手術の準備が安全に行われる。		→		循環動態が安定している。 痛みコントロールができる。	痛みコントロールができる。	車椅子に移動できる。 リハビリの必要性がわかる。	リハビリに応じて生活動作を向上することができる。		退院の準備ができる。		
処置・検査・観察	入院時に検温を行います。 弾性ストッキングのサイズを測定します。	手術前に検温を行います。 手術前に手術をしない足に弾性ストッキングを履きます。 義歯、時計、ヘアピン等の装飾品は外してください。		必要に応じて検温を行います。 胸に心電図のモニターをつけます。 手術部にドレーン(傷口の血を抜く管)が入っています。 酸素のマスクをつけます。 手術をしていない足にフットポンプをつけます。 患部を冷やします。		必要に応じて検温を行います。 状態が安定していれば心電図モニターを外します。 朝に採血があります。 患部を冷やします。	必要に応じて検温を行います。 傷口のガーゼを交換します。その際に、ドレーンを抜きます。 患部を冷やします。	毎日、検温を行います。 月・木曜に医師が傷を確認し必要に応じてガーゼを交換します。 術後10日目を目安に抜糸を行います。 医師の指示により、採血・レントゲンがあります。 患部に熱感があれば冷やします。		毎日、検温を行います。 医師の指示により、採血・レントゲンがあります。 患部に熱感があれば冷やします。		
内服	普段通りです。		中止薬( ) 中止薬以外の薬は朝( )時まで に内服してください。		食事が再開になれば薬も再開します。 中止薬は、指示があるまで中止です。 術後、状態が安定するまで看護師が薬を配ります。		痛み止めの薬が出ます。	ベッドから起きられるようになれば、薬は自分で管理します。				
点滴			朝、医師が点滴の針を挿入します。 その後、点滴を行います。 点滴は、指示があるまで続きます。		点滴が翌日まで続きます。 抗生剤の点滴を行います。 術後、医師の指示により痛み止めの薬を使用します。		抗生剤の点滴を行います。					
安静度	普段通りです。		普段通りです。		ベッドの上で安静になります。 寝返りや起き上がりはできます。		→		ドレーンが抜けてから理学療法士と車椅子に移動する練習を行います。		リハビリに応じて、段階的に移動手段を変更していきます。指示が出ますので指示に沿う様にしてください。 車椅子→歩行器→杖歩行	
リハビリ									CPM(膝を曲げる訓練の機械)を行います。 リハビリが始まります。(リハビリは土日、祝日は休みです)		CPMは110度まで到達すれば、終了します。 膝を伸ばす練習も行います。 リハビリがあります。 (リハビリは土日、祝日は休みです)	
栄養(食事)	普段通りです。 ( )時以降絶食です。		絶食です。 飲水は( )時まで可能です。		指示により飲水、食事を始めます。		普段どおりです。		→		→	
清潔	普段通りです。						体を拭き着替えをします。 お下を洗います。		お下を洗います。		術後4日目以降から週に2回、看護師と共にシャワーをします。	
排泄	普段通りです。		→		手術室で膀胱に尿を出す管が入ります。 便はベッドの上で便器もしくはオムツを使用します。		→		車椅子で看護師と共にトイレへ行きます。 トイレへ行けるようになれば、尿の管を抜きます。			
指導説明	主治医から手術の説明があります。 麻酔科医師から麻酔の説明があります。(手術当日になる場合もあります) 手術室看護師から説明があります。		手術の予定時間は( : )頃です。 時間変更がある場合はお知らせします。		痛みがある時や気分が悪いなど何かあればお知らせください。		→		→		日常生活の指導を行います。 	

☆なお、状態に応じて予定が変更になる場合があります。  
ご不明な点がございましたら、お尋ねください。



医師( )  
理学療法士( )

看護師( )

薬剤師( )  
北播磨総合医療センター 整形外科